

第5学年1組 音楽科学習指導案

授業日 平成28年9月30日(金) II校時
授業者 附属新潟小学校 教諭 佐藤 史人
会場 附属新潟小学校音楽室

1 題材名

「スライドショーのBGMをつくろう ～仕組みを生かした音楽づくり～」

2 本題材の価値

本題材は、学習指導要領の第5学年及び第6学年の内容A表現(3)の内容を受けて設定する。

第5学年及び第6学年の内容

A表現(3) 音楽づくり

イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。

〔共通事項〕ア(ア) 音色, リズム, 速度, 旋律, 音の重なりや和声の響き
(イ) 反復, 変化

本題材は、佐渡自然体験教室を伝えるスライドショーのBGMをつくる活動を通して、体験したことや心に残ったことから感じたことや学んだことなどの思いを、音楽をつくって表現する学習である。音楽づくりの内容としては、感じたことや学んだことなどの思いを音楽で表現するために、これまでに学習して身に付けた知識・技能を活用しながら、音楽を形づくっている要素(音色, リズム, 速度, 旋律, 強弱, 音の重なりや和声の響き, 反復, 変化)を選んだり組み合わせたりといった試行錯誤をすることによって、音を音楽に構成して音楽をつくる学習である。

本題材の価値は大きく三つある。

一つ目は、佐渡自然体験教室での直接経験が、子どもたちが感じたり学んだりすることを充実させ、それを伝えたい、表現したいという意欲につながっていることである。

総合的な学習の時間では、佐渡自然体験教室のまとめの一つとしてスライドショーづくりに取り組んでいる。伝える相手は、来年度同じ体験教室を迎える4年生である。子どもは、4年生により分かりやすく伝えるためにスライドショーを工夫しようと考えている。スライドショーで何を伝えるのか、経験したことを具体的に伝えるにはどの写真を使うのか、どんな順番で写真を見せるのかなどである。本題材では、提示されたBGMのモデルによって、子どもたちは「スライドショーにBGMもつけたい。BGMをつくりたい」という思いをもつ。そして、伝えたい思いを膨らませて音楽づくりに取り組むのである。

二つ目は、佐渡自然体験教室の直接経験が、音楽科の知覚・感受の能力を高め、思考力を育むことにつながることである。例えば、子どもは「佐渡のたらい船体験で感じた波に揺られる心地よさを音楽でも伝えたい」と思う。これは、表したいけどまだ表せていないという現状と未来とのずれを包含した不確定状況である。そこで子どもは、過去の経験から使えそうな知識・技能を呼び起こし、「以前演奏した鉄琴の旋律から柔らかい不思議な雰囲気を感じた。波に揺られる心地よさを表現できるかもしれない」と仮説を立て、演奏してみる。その時、子どもと鉄琴との相互作用が起こり、ゆっくり揺れる波のように音が上ったり下がったりする旋律を考えるという音楽的な状況が生まれる。また、子どもは、「同じ波の形(フレーズ)で音の高さを変えてみよう」「反復演奏してたらい船がどんどん進んでいく様子を表現しよう」というように次の仮説を生み出して思考していく。このように、佐渡自然体験教室という直接経験が、音楽科の知覚・感受の能力を高め、思考力を育成するのである。

三つ目は、タブレット端末の音楽制作支援ツール(ipadのアプリGarageBand)を活用することである。既習の「ホームページのBGMをつくろう」(音楽)の題材で初めて活用し、本題材が2度目の活用である。このツールには、指で画面をタッチするだけで様々な和音を演奏することができる機能がある。この機能を使うことによって、I、IV、V、及びV₇の和音だけでなく他の和音も含めて、和音の連結による音楽の響きを感じ取り、感覚的にその変化のよさや美しさを味わうことができる。子どもは、自由に和音を選び、自分で和音進行を考えることができる。そして、考えた和音進行の響きや和音の構成音を手掛かりにして、BGMの音楽をつくるのである。

3 本題材で目指す姿

体験したことや心に残ったことなどと、表現方法の効果とを関連付けて、自分の思いに合う音楽をつくる子ども

「テーマは『佐渡の自然』です。私たちは、佐渡のたらい船体験で感じた波に揺られる心地よさと、棚田を歩いて感じた自然の豊かさを伝えたいと思いました。鉄琴でゆっくり反復しながら波に揺られる感じを表現しました。次に場面が棚田の風景が変わるので、歩くリズムに変えて速度も速くしました。そして自然が広がる様子を表現するために楽器を増やして音を大きくしていき、最後は速度を遅くして自然の豊かさを表現しました」などと考える姿。

4 本題材で育成する資質・能力

単元カード参照

5 指導計画 全6時間 (180)

単元カード参照

6 指導の構想

子どもはこれまでに、「ホームページのBGMをつくろう」(音楽)の題材で、イメージした言葉からリズムをつくり、イメージに合う和音進行を考え、和音の構成音を手がかりにして4小節の旋律をつくる学習をしている。また、旋律と合わせて簡単な伴奏もつくることができた。音楽を形づくっている要素「反復」や「変化」といった仕組みで音楽を構成して音楽づくりをする学習は行っていない。

「和音の音で合奏しよう」(音楽)の題材では、参考曲「ゆかいな木きん」(第3学年の合奏曲)を演奏しながら、和音の音で構成している旋律パート、中・高音パート、低音パートの役割と、リズムパートの役割について学習している。

「トキめき自然・文化体験in佐渡！」(総合的な学習の時間)の単元では、トキにかかわる農林業や佐渡の伝統文化を体験し、自然を生かした人々の暮らし方や伝統文化についてまとめる学習をし、4年生に伝える目的でスライドショーをつくっている(CO)。

このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

教師がつくった佐渡自然体験教室のスライドショー(音楽のモデル)を提示し、感想を問う。

魅力的なスライドショーにするための音楽づくりに興味をもたせるための働き掛けである。

まず、7月の佐渡自然体験教室について、数枚の写真を見せながら話題にする。子どもは、自分たちが体験したことを思い出し、活動の様子を話したり、思い出を語ったりする。

次に、「皆さんは総合的な学習の時間で、スライドショーづくりをしていますね。先生もスライドショーをつくってみました」と、教師がつくったスライドショーを提示する。このスライドショーにはシンプルなBGMがついている。スライドショーの感想を問う。作品を見た子どもは、「写真と流れてる音楽が合ってる」「BGMがあると素敵な感じがした」「自分たちのスライドショーにもBGMを付けてみたい」などと、感想を述べる。「自分たちのスライドショーにもBGMを付けてみたい」という感想を取り上げ、「私は佐渡自然体験教室には行っていないのでここまでしか音楽をつくれませんでした。実際に体験してきた皆さんなら、どんな音楽をつくりたいですか」と問う。子どもは「僕ならだんだん楽器が増えて楽しく盛り上がる感じの音楽をつくりたいです」などと答え(③態度)、体験したことと関連付けながらBGMをイメージし、BGMをつくってみたいと考える。これが問いをもった姿である。

このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け2

どのように学習を進めていくかを問い、必要なツールを選ばせてから音楽づくりに取り組ませる。

学習の進め方の見通しをもって音楽づくりをさせるための働き掛けである。

音楽をつくるために、どのように学習を進めていくかを問う。子どもは、総合的な学習の時間で活動しているグループで相談しながら音楽をつくりたいなどと答える。次に、グループごとに音楽づくりに必要なツールを選ばせる。ツールは、これまでもよく使われていた楽器、コピー用紙、原稿用紙、五線譜シート(小節線等記入済み)、イメージマップシート、タブレット端末など、複数用意しておく。また、スライドショーに新たに写真を加えたいと考えるグループのために写真データも用意する。各グループの演奏音が互いの音楽づくりの妨げにならないように、必要に応じて活動場所を指示する。子どもは、作品のイメージや音楽を考えるために必要なツールを選択し、音楽づくりに取り組む。これが学習の進め方の見通しをもって音楽づくりを始める姿である。

子どもは、グループ内でコミュニケーションを図りながら(④協働性)、スライドショーのイメージに合った和音進行を考えるためにタブレット端末を使って和音を演奏したり、考えた旋律を楽器で演奏したり、考えた音楽を五線譜シートに記録したりする(①知識・技能、⑤ツール活用能力)。そして、複数パートで構成された4小節の音楽をつくる。これまで4小節の音楽づくりや各パートの役割を学習してきたからである。

4小節の音楽をつくった子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け3

スライドショーの中間発表を設定し、感じたことを問う。

音楽づくりにおける新たな課題に気付かせるための働き掛けである。

4小節の音楽をつくったところで、実際のスライドショーの様子を確認するためにスライドショーの中間発表を行うことを提案する。子どもは、初めてスライドショーに合わせて音楽を演奏する。しかし、複数の写真のスライドショーが終わらない内に、音楽の演奏が終わってしまう。感じたことを問う。子どもは、「映したい写真がまだあるのに、音楽が終わってしまった」「音楽がスライドショーに合っていない感じがする」などと感じたことを答える。音楽をどうしたいかと問う。子どもは、「音楽を長くしたい」「スライドショーに合うように音楽を工夫したい」などと答える。

新たな課題に気付いた子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け4

知りたいことを問い、資料(参考曲や楽譜等)を提示し、気付いたことを要素ごとに整理しながら板書する。

音楽づくりを深めるために、音楽を形づくっている要素に気付かせるための働き掛けである。

音楽を長くしたいなどと考え始めた子どもに、「今知りたいことは何か」と問う。子どもは「音楽を長くする方法や工夫の仕方が知りたい」などと答え、参考になる資料を求める。そのような子どもに、参考曲を聴かせる。この参考曲は、本題材の最初に教師が提示したBGMをさらに工夫した音楽である。スライドショーと合わせて参考曲を再生する。参考曲を聴いた子どもに、気付いたこととその理由を問う。子どもは、同じ旋律が反復されて音楽が長くなっていることや、リズムや楽器の数が変化していることなど、気付いたことを答える。また、その理由として、伝えたい場面が変わったり気持ちが変わったりしたからではないかと答える。出された意見を音楽を形づくっている要素ごとに整理しながら板書する。その際、拡大した参考曲の楽譜（五線譜シートに書き込んだもの）や印刷したスライド写真資料も提示し、整理したことを書き込んで工夫点を可視化する。子どもは、板書と楽譜等を見ながら、反復することや、リズム、音色、速度などを場面やその時に感じた思いに合わせて変化させることによって、4小節だった音楽が8小節や16小節の音楽になり、スライドショーに合わせて音楽を工夫できそうだと見通しをもつ。これが、音楽を形づくっている要素に気づき、それを生かして音楽づくりしようとする姿である。

再び音楽づくりに取り組ませる。その際、「自分たちも印刷したスライド写真資料に書き込みたい」などと資料を求めてきたら、スライド写真資料を配付する。子どもは再び音楽づくりに取り組む。**音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素とその働きに着目し、自分たちのイメージと音楽の表現方法の効果とを関連付けて考えるという見方・考え方を働かせながら、つくった旋律を反復したり、他のパートのリズム、音色、速度を変えたりして、伝えたい場面やその時に感じた思いに合うように音楽をつくる（②思考力・判断力・表現力）。**また、さらに和音進行を工夫するためにタブレット端末を使って和音の構成を考えたり、新しく考えた音楽を五線譜シートやスライド写真資料などに記録したりする（①知識・技能、⑤ツール活用能力）。子どもは、グループ内でコミュニケーションを図りながら（④協働性）、音楽を形づくっている要素を手掛かりに試行錯誤を繰り返してスライドショーの音楽をつくり上げていく。

働き掛け5

音楽を完成させて発表会を設定し、作品の特徴を振り返りシートに記述させる。

音楽を完成させ、自分たちの作品を振り返り、コミュニケーションを図りながら発揮した資質・能力を自覚させるための働き掛けである。

スライドショーの音楽を完成させる。子どもは、グループ内でコミュニケーションを図りながら（④協働性）、音楽を形づくっている要素を手掛かりに試行錯誤を繰り返してスライドショーの音楽を仕上げる。こうして、**体験したことや心に残ったことなどと、表現方法の効果とを関連付けて、自分の思いに合う音楽をつくる子ども（Cn）**になる。

スライドショーの発表会を設定する。子どもは、自分たちでつくった音楽について、スライドショーに合わせて担当する楽器の特徴を生かして演奏したり、全体を聴きながら音を合わせて演奏したりする。また、他のグループの作品について、スライドに合った楽曲の特徴や演奏のよさを感じ取りながら聴く（①知識・技能）。

一人一人に振り返りシートを配付し、自分たちの作品の特徴を記述させる。子どもは、「テーマは『佐渡の自然』です。私たちは、佐渡のたらい船体験で感じた波に揺られる心地よさと、棚田を歩いて感じた自然の豊かさを伝えたいと思いました。鉄琴でゆっくり反復しながら波に揺られる感じを表現しました。次に場面が棚田が変わるので、歩くリズムに変えて速度も速くしました。そして自然が広がる様子を表現するために楽器を増やして音を大きくしていき、最後は速度を遅くして自然の豊かさを表現しました」などと記述し、音楽科における様々な資質・能力を発揮したことで課題を解決できたことを自覚する。

7 本時の構想（本時 4/6時間）

(1) ねらい

音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素とその働きに着目し、自分たちのイメージと音楽の表現方法の効果とを関連付けて考えるという見方・考え方を働かせながら、旋律を反復したり、他のパートのリズム、音色、速度を変えたりしながら、伝えたい場面やその時に感じた思いに合うように音楽をつくることができる。

(2) 主張（展開）3Q（45分）

このような子どもに（C0）

- 「ホームページのBGMをつくろう」（音楽）の題材で、イメージした言葉からリズムをつくり、イメージに合う和音進行を考え、和音の構成音を手がかりにして4小節の旋律をつくる学習をしている。また、旋律と合わせて簡単な伴奏もつくっている。
- 音楽を形づくっている要素「反復」や「変化」といった仕組みで音楽を構成して音楽づくりをする学習は行っていない。
- 「和音の音で合奏しよう」（音楽）の題材では、参考曲「ゆかいな木さん」（第3学年の合奏曲）を演奏しながら、和音の音で構成している旋律パート、中・高音パート、低音パートの役割と、リズムパートの役割について学習している。
- 「トキめき自然・文化体験in佐渡！」（総合的な学習の時間）の単元では、トキにかかわる農林業や佐渡の伝統文化を体験し、自然を生かした人々のくらし方や伝統文化についてまとめる学習をし、4年生に伝える目的でスライドショーをつくっている。

このように働き掛けると【働き掛け1】

- 教師がつくった佐渡自然体験教室のスライドショー(音楽のモデル)を提示し、感想を問う。
 - ・説明「皆さん、7月の佐渡自然体験教室で素晴らしい学習をしてきたそうですね。この写真もいい表情してますね」
 - ※ 数枚の写真を見せながら、活動の思い出などを話題にする。
 - ・説明「皆さんは総合的な学習の時間で、スライドショーづくりをしていますね。先生もスライドショーをつくってみました。見てください」
 - ※ 教師がつくったスライドショー(シンプルなBGM付きの作品)を提示する。
 - ・発問「このスライドショーはいかがでしたか。感想はありませんか」
 - ※ 数人に感想を発表させる。
 - ・発問「自分たちのスライドショーにもBGMを付けてみたいという感想がありました。私はたらい船は体験したことがありますが、佐渡自然体験教室には行っていませんのでここまでしか音楽をつくれませんでした。実際に体験してきた皆さんなら、どんな音楽をつくりたいですか」
 - ※ 数人に発表させた後、全体にもBGMづくりの意志を確認する。
 - ※ 学習課題を板書する。

このようになり(01)

- 魅力的なスライドショーにするための音楽づくりに興味をもつ。
 - ・たらい船だ。海は静かだったけど結構揺れたよね。
 - ・これは田んぼ作業の手伝いをしたんです。田んぼに入って楽しかったです。
 - ・写真と流れてる音楽が合っているな。
 - ・BGMがあると素敵な感じがしました。
 - ・自分たちのスライドショーにもBGMを付けてみたいです。
 - ・僕ならだんだん楽器が増えて楽しく盛り上がる感じの音楽をつくりたいです。
 - ・私なら、佐渡の海や山はもっと広がったから、ゆったりした音楽をつくりたいです。
- ◎佐渡自然体験教室のスライドショーに合うBGMをつくろう(学習課題)

このように働き掛けると【働き掛け2】

- どのように学習を進めていくかを問い、必要なツールを選ばせてから音楽づくりに取り組ませる。
 - ・発問「それでは、スライドショーに合う音楽をつくるために、どのように学習を進めていきますか」
 - ・指示「分かりました。では総合的な学習の時間のグループで音楽をつくりましょう」
 - ・指示「ここに、よく使う楽器、コピー用紙、原稿用紙、五線譜シート、イメージマップシート、タブレット端末などを用意しました。さらに使いたい楽器の希望があれば用意します。また、新たに写真を加えたいグループには写真データも渡します。必要な楽器や道具を使って考えながら、グループで音楽づくりを始めましょう」
 - ※ 事前にツールを用意し並べておく。必要な楽器を貸し出す。
 - ※ 写真データを用意しておく。
 - ※ 各グループの演奏音が互いの音楽づくりの妨げにならないように、必要に応じて活動場所を指示する。

このようになり(02)

- 学習の進め方の見通しをもって音楽づくりを始める。
 - ・総合的な学習の時間で活動しているグループで相談しながら音楽をつくりたいです。
 - ・五線譜シートに書きながらつくろう。和音も考えるからipadも使うかな。
 - ・よし、音楽をつくろう。曲のタイトルは「佐渡の自然」はどうか。
 - ・イメージに合う和音進行から考えよう。和音がきまったらパートごとに音楽を考えていこう。
 - ・鍵盤ハーモニカで4小節の旋律ができてきたぞ。忘れないように五線譜シートに記録しよう。
 - ・リズムパートの音楽を考えるためにコンガを使ってもいいですか。
 - ・低音パートの楽器はバス木琴かバスマスター、どっちがいいかな。
 - ・よし、4小節の旋律パート、中・高音パート、低音パート、リズムパートができたぞ。
 - ・つくった音楽をみんなで演奏してみようよ。

本時ここから

このように働き掛けると【働き掛け3】

- スライドショーの中間発表を設定し、感じたことを問う。
 - ・指示「どのグループもある程度音楽をつくっていますね。今日は、実際のスライドショーの様子を確認するために、スライドショーの中間発表を行いましょう」
 - ※ 大型テレビ(またはプロジェクター)でグループの写真を映し出し、演奏と同時にスライドショーする。
 - ・発問「スライドショーをやってみました。音楽はいかがでしたか」

- ・発問「では、音楽をどうしたいのですか」
- ※ 音楽を工夫したいなどの意見を取り上げ、全体にも同意を確認する。

このようになり (C3)

- 音楽づくりにおける新たな課題に気付く。
 - ・よし、スライドショーに合わせて音楽を演奏しよう。
 - ・あれ、まだ写真が終わっていないのに、音楽が終わっちゃったよ。
 - ・音楽がスライドショーに合っていないと思いました。
 - ・スライドショーの長さくらいに、音楽を長くしたいです。
 - ・スライドショーに合うように音楽を工夫したいです。

このように働きかけると【働き掛け4】

- 知りたいことを問い、資料（参考曲や楽譜等）を提示し、気付いたことを要素ごとに整理しながら板書する。
 - ・発問「今、皆さんが知りたいことは何ですか」
 - ※ 補助発問「参考になるものを聴いてみたいのかな」「楽譜など見てみたいのかな」
 - ・説明「皆さんの考えの参考になりそうな音楽を用意しました。以前先生がつくったBGMをさらに工夫した音楽です。皆さんから教えてもらった活動の様子を参考にして、続きのスライドショーをつくり、音楽も工夫してみました。スライドショーと合わせて聴いてください」
 - ※ スライドショーに合わせて参考曲を再生する。
 - ・発問「気付いたことはありませんか」
 - ※ 補助発問「なぜそう感じたのかな」「他にも気付いたことはありますか」
 - ※ 出てきた意見を、音楽を形づくっている要素ごとに整理し板書する。
 - ・説明「これが楽譜です。皆さんが気付いたように音楽が工夫されていますね」
 - ※ 拡大した参考曲の楽譜（五線譜シートに書き込んだもの）や印刷したスライド写真資料を提示し、楽譜や資料に工夫点を書き込む。
 - ・指示「それでは、皆さんが今つくっている音楽も、音楽を形づくっている要素に注目して、場面やイメージに合うように表現を工夫して音楽をつくってみましょう」
 - ※ 印刷したスライド写真資料を求めてきたら、スライド写真資料を配付する。
 - ※ 補助発問：グループの活動を見て回りながら「なぜその工夫を考えたのか」と問う。
 - ※ 演奏音などが互いの音楽づくりの妨げにならないように、必要に応じて活動場所を指示する。
 - ※ この場面は2時間（6 Q90分）行う。本時では、3 Q45分の時間で区切る。

このようになり (C4)

- 音楽づくりを深めるために、音楽を形づくっている要素に気付き、音楽づくりをする。
 - ・音楽を長くする方法や工夫の仕方が知りたいです。
 - ・どんな感じにするとよいのか聴いてみたいです。
 - ・旋律が繰り返されて音楽が長くなっている。でも、少し変化してるぞ。
 - ・場面が変わって、音楽も速度が変わった。リズムパートが入ってきて雰囲気が変わったな。
 - ・途中で元気な感じになりました。理由は場面や気持ちの変化に合わせて音やリズムも変化させたからだと思います。
 - ・最後は、少し豪華になりました。速度がゆっくりになったからだだと思います。
 - ・場面や気持ちの変化に合わせて「反復」したり、「リズム」「音色」「速度」などを工夫したりすると、音楽を長くできそうだね。
 - ・自分たちも印刷したスライド写真資料に書き込みたいです。
- ・この4小節の音楽を繰り返すことにしよう。
- ・初めはたらい船の様子だから速度は遅くていいけど、次に繰り返すときは棚田の場面だから速度を少し速くしようよ。結構歩いたよ。
- ・それなら、頑張ってみんなで歩く感じのリズムに変えようよ。
- ・じゃあ、音も鉄琴じゃなくて木琴の方が元気な感じになるんじゃないの。
- ・もう一回反復して、速度をゆっくりにしよう。だんだん音も大きくして、緑が広がる佐渡の自然を表そうよ。
- ・最後に和音も変えてみようか。ipadで和音考えてみようよ。
- ・新しくつくった部分を忘れないように五線譜シートやスライド写真資料に書いておこう。

本時 C4の途中まで

このように働きかけると【働き掛け5】

- スライドショーの音楽を完成させる。
 - ・指示「スライドショーの音楽もある程度できてきたようですね。完成したら担当楽器を決め、演奏練習もしましょう」
 - ※ 机間巡視をして、楽器の奏法や記譜の仕方などの助言をする。
- スライドショーの発表会を設定する。

- ・指示「それでは、スライドショーの発表会をしましょう」
 - ※ 大型テレビ(またはプロジェクター)でグループの写真を映し出し、演奏と同時にスライドショーする。
- 作品の特徴を振り返りシートに記述させる。
 - ・指示「どのグループも、素敵なスライドショーでしたね。音楽作品にはどんな特徴がありますか。振り返りシートを全員に配りますので、完成したスライドショーの音楽の特徴について、自分で説明を書きましょう」
 - ※ 振り返りシートを配付する。

このようになる(Cn)

- スライドショーの音楽を完成させる。
 - ・音楽がだいたい出来上がったね。
 - ・楽器担当を決めて..演奏練習しよう..
- 作品発表をする。
 - ・スライドショーに合わせて担当する楽器の特徴を生かして演奏しよう。
 - ・全体を聴きながら、みんなと音を合わせて演奏しよう。
 - ・鉄琴の音色とゆっくりな速度が、静かな海の様子に合っているな。
 - ・最初の音楽を反復しながら、写真の活動場面が変わったらリズムも元気な感じになったぞ。
- 作品の特徴について、個々に振り返りシートに記述する。
 - ・「テーマは『佐渡の自然』です。私たちは、佐渡のたらい船体験で感じた波に揺られる心地よさと、棚田を歩いて感じた自然の豊かさを伝えたいと思いました。鉄琴でゆっくり反復しながら波に揺られる感じを表現しました。次に場面が棚田に変わるので、歩くリズムに変えて速度も速くしました。そして自然が広がる様子を表現するために楽器を増やして音を大きくしていき、最後は速度を遅くして自然の豊かさを表現しました」

8 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した見方・考え方を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ④ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け4と5を受けて、_____のように、体験したことやその時感じたことと、音楽を形づくっている要素を選んだり組み合わせたりして音楽表現を工夫することとを関連付け、それらの表現を生かして伝えたい場面やその時に感じた思いに合う音楽をつくっているかどうかを、発言や演奏の様子、五線譜シートやスライド写真資料の記録、撮影した映像から判断する。
- ② 働き掛け4を受けて、_____のように、「音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素とその働きに着目し、自分たちのイメージと音楽の表現方法の効果とを関連付けて考える」姿が見られたかどうかを、発言や演奏の様子、五線譜シートやスライド写真資料の記録、撮影した映像から判断する。
- ③ 働き掛け1・2・4・5において、次のような姿が見られたかどうかを、発言や演奏の様子、五線譜シートやスライド写真資料の記録、撮影した映像から判断する。
 - ア. _____のように楽器の特徴を生かしたり、音楽全体に合わせながら演奏したりする姿、他のグループの音楽のよさを感じ取りながら聴いたりする姿が見られたら、知識・技能を発揮したとみなす。
 - イ. _____のように、場面やその時の思いに合うように音楽を形づくっている要素を工夫し、表現方法の効果を考えて音楽をつくっている姿が見られたら、思考力・判断力・表現力を発揮したとみなす。
 - ウ. _____のように、体験したことと関連付けながらBGMをイメージし、BGMをつくってみたいと考える姿が見られたら、態度を発揮したとみなす。
 - エ. _____のように、グループ内でコミュニケーションを図りながら音楽をつくったり演奏したりする姿が見られたら、協働性を発揮したとみなす。
 - オ. _____のように、和音進行を考えるためにタブレット端末を使って和音の構成を考えたり、新しく考えた音楽を五線譜シートなどに記録したりする姿が見られたら、知識・技能やツール活用能力を発揮したとみなす。
- ④ 働き掛け5を受けて、_____のように、発揮した資質・能力(②思考力・判断力・表現力、①知識・技能)を自覚することができたかを、振り返りシートの記述から判断する。